投条抄集 一

伊地知文庫
文庫20
360
3

文庫20
360
3

扶桑拾葉集卷第一

目錄

古萬葉集序
古今和歌集序
後拾遺和歌集序
千載和歌集序
新古今和歌集序
新勅撰和歌集序
續古今和歌集序

淑滅天皇
紀貫之
藤原通俊
藤原俊成
菅原良經
菅原定家
藤原基家

風雅和歌集序
新葉和歌集序
新後拾遺和歌集序
新續古今和歌集序

花園天皇
宗良親王
後原良基
後原兼良

拾葉集巻第一

参議従三位兼行右近衛中將源朝臣光圀編集

古今葉集序

崇神天皇

保坂弘司文庫

古今和歌集序

紀貫之

おくるまで、いかゞとおもひて、いゝ加減にとうしさし出でつゝ

後拾遺和歌集序

藤原通俊

古今後撰拾遺集よりの勢て旧くも聴と。その
外にしも秋刀もりのもの。ものもかくに。中にも
舟のをもてにはれて。中にも立ちこれ迄
の詞の中よりそのまゝ天暦の
ものそ。代々ものまゝ。天暦の
年ゝのまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
濱のまゝこれうと。ものまゝ。
うまゝよりと。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。

仁和んこのかのもの。
ものまゝ。後撰拾遺集よりの。
ここにものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。
うまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
古今のまゝ。ものまゝ。
のまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。
ものまゝ。ものまゝ。ものまゝ。

二十巻とそ(ろ)ふ(へ)ぬ。世みな(な)(ら)ひ(ひ)もてあそ(そ)ぶ(ふ)ことなり。村上の(の)御(御)時(時)に(に)古今和歌集(集)
をえら(ら)ば(ば)れ(れ)し(し)。又文(文)和(和)の(の)集(集)あ(あ)り(り)。又(又)後(後)撰(撰)集(集)あ(あ)り(り)。又(又)拾遺集(集)あ(あ)り(り)。又(又)金(金)葉(葉)
集(集)あ(あ)り(り)。又(又)詞(詞)花集(集)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)古今(古今)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)勅(勅)撰(撰)あ(あ)り(り)。又(又)続(続)後(後)撰(撰)あ(あ)り(り)。又(又)続(続)古(古)今(今)あ(あ)り(り)。又(又)続(続)後(後)拾遺集(集)あ(あ)り(り)。又(又)風(風)雅(雅)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)千(千)載(載)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)拾遺集(集)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)後(後)撰(撰)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)後(後)拾遺集(集)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)続(続)古(古)今(今)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)後(後)撰(撰)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)後(後)拾遺集(集)あ(あ)り(り)。又(又)新(新)続(続)古(古)今(今)あ(あ)り(り)。
なりけり。又元(元)亨(亨)法皇(皇)に(に)こ(こ)の(の)ゆ(ゆ)へ(へ)の(の)集(集)よ(よ)ろ(ろ)
そ(そ)ふ(ふ)ことを(を)ゐ(ゐ)給(給)ひ(ひ)て(て)。拾遺集(集)なりけりを(を)と(と)へ(へ)や(や)。
そ(そ)ふ(ふ)ことと(と)ゐ(ゐ)給(給)ひ(ひ)ぬ(ぬ)。こ(こ)の(の)ゆ(ゆ)へ(へ)の(の)こ(こ)と(と)そ(そ)。こ(こ)ん(ん)
うたふ(ふ)ら(ら)ひ(ひ)の(の)集(集)。こ(こ)の(の)ゆ(ゆ)へ(へ)の(の)大納言(言)公(公)任(任)卿(卿)。女(女)そ(そ)ら(ら)
海(海)ち(ち)も(も)な(な)し(し)。よ(よ)ろ(ろ)つ(つ)の(の)こ(こ)と(と)ば(ば)も(も)な(な)き(き)こ(こ)と(と)
のまゝ(ゝ)しつ(つ)の(の)ま(ま)人(人)とな(な)ら(ら)ひ(ひ)ぬ(ぬ)へ(へ)き(き)ことにて(て)。あまたしもな(な)き(き)こと
そ(そ)ら(ら)ごとのまゝ(ゝ)いそ(そ)ぢ(ぢ)とも(も)ら(ら)ひ(ひ)ぬ(ぬ)へ(へ)き(き)ことにて(て)。又(又)こ(こ)ゝ(ゝ)ろ(ろ)あまた
いはゝ(ゝ)この(の)ことのせう(う)そ(そ)こ(こ)ども(も)。世(世)ま(ま)ねくこゝ(ゝ)ろ(ろ)ゆ(ゆ)き(き)。古(古)う(う)
ものしこと(と)なるに(に)。この(の)ことのせう(う)そ(そ)こ(こ)ども(も)。ま(ま)ねくこゝ(ゝ)ろ(ろ)ゆ(ゆ)き(き)。古(古)う(う)
ものしこと(と)なるに(に)。

まことゝ(ゝ)いひ(ひ)。こ(こ)ゝ(ゝ)ろ(ろ)なをし(し)。人(人)のこゝ(ゝ)ろ(ろ)を
なをし(し)。まことあらしめ(め)ん(ん)やまと(と)歌(歌)と(と)ぞ(ぞ)。
人(人)なら(ら)ひ(ひ)。もの(の)ま(ま)ねびす(す)ること(と)
もの(の)ま(ま)ねびす(す)ること(と)
もの(の)ま(ま)ねびす(す)ること(と)

千載和歌集序

藤原俊成

新古今和歌集序

藤原良経

新勅撰和歌集

藤原定家

前参議藤原基家

ゆうせ・きよ・いはきぬだう
とおもふ・うめとうぐひす
としらい・梅ごと・古のはひ
みえこと・きよ・はる
むかえいのち・梅
いろこゝろい・花の
鳥もその志をみよむ
なこそのきれい・いま
とてうたえる事・梅
世を・あまそ花とえ・古

梅花うたよ・秋いも
そいはゆうのかみう・雪
時よはきる・なをけう・雪
明神い・二十一字とそ
えはく・傳教大師い
如意のはいとけく
深こと・去年
うけ夜とのう・
なるへものと
の峯よこゝ・和哥
さこゝ・花

古今和歌集
友い花の夜

風雅和歌集序

花園天皇

新葉和歌集序

京良親王

新後拾遺和歌集序

藤原良基

ますらをのさつやのうちにたちまじり
もゝしきのみやこをさしてゆくみちの
らのあまとそうせんとおもふこゝろを
いつるとにとゝめまし・志らゆきの
左のみぎりにつもりみてるを
をまのおとろ〳〵とおうる
うちよりまのこゑをきゝとりて
みとのもゝみぢ・うめつゝ梢中
細き藤原朝臣為度
いきまきて・こゝろとゝめんとおもへ

飛ほとゝぎすのうれしきをもすて
出てもゝしきのみやこにかへりて・雅俊の
ものこゝろをよめる・文治
のこゝろは世よ・皇太后宮大夫俊成・みこを
うをよめる・従二位頼政・延文
もゝまで・代とみえて飛とをしへ
ゆたにとをよめる・前中納言
よたのそのそのゝそのゝそのゝそのゝ
ゆ行とをよめる・左衛門督
集とよ・公井のとをよめる・右衛門

新古今和歌集序

藤原兼良

天竺震旦我国
いにしへいまを
前六八冬いはず
もとい和歌ふみ三十文字
文字もあまたなるとの
しもましもまれ
いやしき
まれ
し
永徳のころ

うしなひて近衛の芸閣の風をうつし、天暦の梨壺をうつしといふものの、みなすたれ、元久よりのち和哥のみさかえ、文永よりのち・権中納言為兼卿花園院雅世公にいたりて、和哥のさまのみ大内山の松のごとくなりて、当時のそこなはれたるをなげき、古風をしたひ、いにしへの風体をこのみ、家ごとにしるまれ、千載うれなき・志らくもの・ことばのさまなど、前中納言定家卿の

うるはしきをのみ・新勅撰と志るして、新大納言為家卿・又二代集とつづくるまでをこのみ・あるは後撰とえらびいでて、後拾遺金葉詞花をうとみ、まして後河内の家の風をしたふものもなきにいたりて、家の風をしたふものも・言葉の花やかなるをのみ・古風をうとむものおほくなりぬ。これ世の人の心・新古今の人の心をうつしてよくうるはしきをこのみ、もしくは・この道をもてあそぶ人の・その時代の風をしたふものおほきゆへなり。しかるに又一部なりともふるき集をもとめ・古風をしたふ時は、その時代の風をしたふものおほくなるゆへ・和哥の姿ふたゝびもとのごとくなる事

九うねの橋久なほてゝ
ゐるのこせうこみち
のまもる世ゝまのしる
動うこのろもゝ父
はるれ・あよさ山乃ほ
ゆくれなのまうしこ
ともを元ゝ帝
新撰古今和歌集
仁業ほうゝ雪とな
ほの字・佛れ法とゝめ
磯乃うに祝ま美と去

枝葉拾葉集卷第一